はじめに

平成30・令和元年度の岡山市こころの健康センターの所報をお届けします。

実はこの文章を書いているのは令和３年１月下旬のことです。現在わが国は（いや、世界は、ですね）新型コロナウィルスによる感染症のいわゆる第三波に襲われており、まだ終息の兆しは見えません。この１年間は、私たち岡山市こころの健康センターの仕事も、新型コロナに振り回され続けてきました。当センターを訪れる人には非接触式の検温を実施し、診察も相談もテーブルの上に大きなアクリル板を置いて、マスクを掛けた上でアクリル板越しに話すことになっています。当初は慣れなかったそんな光景も、今ではもうごくごく当たり前の日常となっています。

そんな今日、昨年度・一昨年度の当センターの所報の原稿（案）を当センターのスタッフに渡されて、この文章「はじめに」を書くよう頼まれました。2 年間の当センターの活動の記録を眺めていると、新型コロナ以降の１年間とその前の２年間の違いをあらためて強く感じます。

もともと当センターの役割として、精神保健・医療・福祉分野の人材育成は重要なものの１つです。そのため、当センターは毎年「地域精神保健」「ひきこもり」「依存症」「自殺」「思春期精神保健」などさまざまな分野、さまざまなテーマの研修会をたくさん開催してきました。ところが新型コロナ以降しばらくの間は、研修会と云う研修会を全て中止することになってしまいました。今回の所報には、それ以前の、それまで当たり前に実施してきた研修会の記録が記載されています。研修会を企画・実施するにはそれなりに大変さもあるのですが、今の状況に置かれると、大変だけど一生懸命良い企画を生み出そうとしていた当時の自分たちが少し羨ましく思えます。

当センターが取り組んできたいくつかの事業は、今回の新型コロナ禍にかなりの影響を受けました。その中でも、「地域移行・地域定着支援事業」と「一般医療機関・アルコール専門病院ネットワーク化事業」は非常に大きな影響を受けたと思います。とくに前者は、平成 29 年度から「岡山市精神病院入院患者実態調査」を開始したところでしたし、同時に「精神障害者地域移行支援連絡会」を新しく開始して、精神科病院の支援者と地域支援事業所の支援者の連携を促進することを強力に進めようとしていました。しかし、新型コロナ以降その動きには大きくブレーキを掛けざるを得ませんでした。

今回の所報に収められている諸事業には、その後一時立ち止まることを余儀なくされた事業も少なくありません。しかし、私たちは遠からず、またその地点から進み始めるつもりです。今後とも皆さまのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

令和３年１月

岡山市こころの健康センター
所　長　　太田　順一郎